

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

本校の1年間の教育活動を振り返り、その取組について評価を行いました。学校評議員を交え、学校評価の適切さや改善策の適切さを評価していただく、学校関係者評価委員会を設置し、評価書として下記にまとめました。

- 1 本年度の重点目標 **みんなでとりくむ みんなでつくる みんなでかんじる**
- 2 本年度の経営方針 **学び・成長に誇りをもてる教育 ～子どもの成長を協働の意識で支え合う学校に～**
- 3 目指す子ども像 **夢をもち ねばり強く取り組み 認め・高めあう子ども**
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価 (A 十分 B おおむね十分 C やや不十分 D 不十分)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学 ぶ 力	①主体的な学びの育成	B	子どもの学ぶ意欲を高める授業を行う。子どもが見通しをもって課題を追究し、自身で調べたり、考えを語ったりしたくなる授業づくり。	A	A
	②学ぶ楽しさの実感	A	体験的な学びを通して、子どもの考えを価値付け、自信をもたせるとともに、友達と学ぶことの価値を感じられるよう、振り返りの仕方を工夫する。	A	A
	③学びの習慣の確立	B	一人一台端末を必要に応じて持ち帰り、活用することで宿題や自主学習を充実。学年の実態に合わせて宿題から自主学習への移行を進める。	A	A
学校関係者評価者による意見		小学校においても、専科の教員が増えると、子どもたちは、楽しく学べると思います。また、ICTの活用のみならず、子ども同士が学び合うことも必要と考えます。			
豊 か な 心	④道徳教育を通じたしなやかな心の育成	A	一人一人の強さや弱さを自分の個性と受け止め、互いに認め合う姿を認め励ます。	A	A
	⑤命を大切にす指導・いじめ防止	A	教育活動全体を通して、命の大切さについて指導を継続し、子どもの日々の変化を細やかに捉える工夫。いじめに対する組織的対応の充実を図る。	A	A
	⑥目標設定とよりよく生きる力の育成	B	夢や目指す姿について考える場を設定し、児童会活動や中学校との交流等を通して、将来に対して具体的な目標をもてるようにする。	A	A
学校関係者評価者による意見		朝の登校中における挨拶などは8割ほどの子がしっかりと返してくれます。一方、雪道の歩行や公園での遊び方、商業施設近辺での行為等には、今後も継続して見守りが必要な状況もあります。			
健 や か な 体	⑦日常的な運動の取組による伸びの実感と意欲の向上	B	委員会活動と連携した日常的な縄跳びの取組やマット・跳び箱の取組重点週間を継続し、意欲を高めるとともに、外遊びを推奨していく。	A	A
	⑧健康・生活習慣に関する意識の向上	B	養護教諭や栄養教諭による健康指導を通して、児童自らが心身の健康について考えることができるような場を構築する。	A	A
学校関係者評価者による意見		スキー学習は、学校での学びの場でしか経験できない可能性もあることから、継続することを望みます。公園等で遊ぶ児童と、全く体を動かさない児童と二分化されてきているのではと感じますので、家庭との連携がより必要になってくると思います。			
信 頼 さ れ る 学 校	⑨誠意あるきめ細やかな対応	A	児童や保護者の困りに寄り添い、教職員全体で情報を共有し、諸問題に誠実に取り組む。	A	A
	⑩危機管理	A	実際の災害を具体的に想定し、児童が自分の命を守る行動を考える避難訓練等を継続する。	A	A
	⑪情報共有、保護者・地域との連携	A	すぐるやホームページを活用し、正確でより早い情報発信や、情報共有に努める。	A	A
学校関係者評価者による意見		PTA組織同様、町内会組織においても運営が難しくなっており、交通指導員等も減少している。また、地域行事等への本校児童の参加が少なくなっていること等を踏まえた対策や地域連携、校種間連携が必要と考えます。			